農業用機械の普及

耕地や農道の整備がすすむとともに、農業用の機械も大型化してきました。小型の耕耘機から、大型トラクターが増えてきました。

昭和45年頃は、家族はもちろん近所の人や親戚の人を頼んで、手で田植えをしていましたが、今では、そういう風景も見られなくなりました。一度に何条も植えられる田植え機が使われるようになりました。

田植えが機械化してくると、稲刈りも同じように機械化されてきました。それも、稲を刈るだけでなく、刈り取るとすぐ脱こくをしてしまうコンバインが使われるようになりました。

稲の収穫が、稲刈りと脱こくを同時に行うようになるとどうしても、もみの乾燥が必要になります。この頃になって、半数以上の農家が二階建ての家の高さほどもある乾燥機をそなえるようになりました。

平成8年には、笈川地区内にＪＡ湯川村カントリーエレベーターが完成し、一度に3,000トンもの米を、乾燥、貯蔵、精米することができるようになりました。

このように、湯川村ではあまりお金をかけないで、共同の力で新しい時代の、新しい農業がすすめられているのです。